

お答えします

町長への手紙

昨年の広報誌に折り込みました「町長への手紙」に寄せられた提言の中から、誌面上でお答えし紹介いたします。

提言

川下の堤防沿いに、公園らしきものを見つけてました。沼があつて柵がきちんとしてあり、そこにはカモがいました。そしてきれいな階段もあり、サイクリングロードだったような舗

装された道もあつて、結構安らげる感じがしましたが、沼にはゴミ等がたくさんあつて雑草も生えていて荒れ放題でした。

どうして、このようになってしまったのでしょうか？ 私達はこの場所を是非きれいにしてもらい、たくさんの方が来てくれるような公園にしてほしいと思ひました。せつかくきちんと整備されているのに、もったいないと思ひました。ちよつとした遊具を

置いて、わかりやすい看板等を立てて、もつとみんなに知らせて利用してもらいたいと思ひました。

お答えします

「公園らしき沼のような場所」は昔、当別川だった場所、川をまつすぐにする改修工事を行った結果、現在のよ

うな沼の状態が残ってしまったものです。平成4年に石狩川開発建設部という国の部署で、河川環境整備の目的のため、ウッドデッキや遊歩道などを設置して、水と親しむ場所として工事を行いました。残念ながら、このことを知っているのは地域の方々や一部の町民だけだったため、有効な活用が

なされないまま荒廃し、一部不法投棄などもされています。

お手紙の通り、この場所にはたくさん野鳥などが訪れ、羽根を休めていることも多く、生態系が壊れていない環境になっていると考えられますので、できるだけ現状の姿を残しながら適正な管理を行っていただくよう、施設の管理者である国に依頼し、たくさんの方が親水施設として利用できるようにしたいと思ひています。

なお、春は雑草がひどく見苦しい状況でしたが、今は草も刈つて水辺まで簡単に行くことができます。

● 「町長への手紙」での、皆様からのご提言をお待ちしています。

町長の日記

15年1月17日(金)

毎年、2,000枚くらい出していた年賀状を今年から町内の人には出さないこととして返信だけにした。

目下、返事を書いているが一人一人顔を思い出しながら、ゆっくり書くのもいいものだ。

然し十枚も書くとだんだん乱筆になり自分でも恥ずかしく思い筆を止めてしまうから全部書きおえるまでには雪が消えてしまうかも知れない。

函館にいる小二の孫の書き初め展が札幌で催されるから「見てやってほしい」と娘から電話があつた。

市民ギャラリーの大会場で「あさひ」と書いた似たような500点余りの中からやっと、孫の作品を見つけた時、30年ほど昔、娘に習字を教えているうちに下手なので腹を立てて娘の顔に墨をぬって叱つたことを急に思い出し、金紙の付いた孫の作品の前で「親の子供の時より上手だ」と感じ、ちよつとうれしくなつた。

デジカメで撮影して函館に送ってやったら「私も瑞季の顔にシミをぬりたくなつたのヨ」と電話で高笑つていた。

父が生前、「自分の子供の頃は学校から帰ったら親は畑に行つて留守だが、明治生まれで字の読めないおばあさんに『もうヨシ!!』と云われるまで毎日習字の練習をさせられた。」と云う話を何回か聞いたが、父はきれいな字を書く人だつた。

今、丁度、立派な筆字の賀状をいただいた方に返事を書く順番がきて手元が固くなりだした。

父が兵隊に行つてなければ、私も顔にシミをぬられていたかも知れないのに。



町長衆亭後考